

地域の文化的機会の場へ 大人も学ぶ・楽しむ

多くのボランティアに支えられ行われているのもこのワークショップの特徴です。中学吹奏楽を応援したいと共感した大人たちの背景もまた様々で、多彩です。地域に場があることで、ここで出会い、人と人の絆ができ、その過程がコミュニティの再生にもつながっていきます。

ワークショップ運営に欠かせないのが教員の声です。子どもたちの実態を踏まえた実施計画や課題の把握、各校ごとに違う指導法を共有し、練習に反映させるためです。助言協力をいただいている天沼中のお二人の教員は今回、プレーヤーとしても参加しています。



天沼中学 高際尚子副校長 明石晴奈教諭 (吹奏楽顧問)



生徒さんと並んで演奏

吹けてる
気がする...



高際先生
大人数の中での演奏、気のせいかもしれませんが(気のせいだと思います)自分もうまくなった気がして楽しいです。一緒に演奏することで『教員が見ている』のではなく、一緒に楽しみましょう、という姿勢をわかってもらえるかなと。そして、思いを言葉にするのが苦手な思春期の子どもたちの気持ちを代弁できたかと思っています。

明石先生

久しぶりに楽器を取り出し手になりました。日頃、吹奏楽部顧問として指導する立場から教わる立場に。「生徒たちはこんな風な気持ちで吹いているのだな」と感じました。また、ワークショップに参加してみてもプロの方々の指導法には、こうすれば効果的なんだと参考になる場面が多くあります。



ボランティアしながら演奏にも参加 大学教員の矢向高広さん



杉並・南相馬で「響きの街へ」

荻窪音楽祭 実行委員長 水島 隆明さん

杉並区と福島県南相馬市は災害時相互援助に関する協定を締結しています。心豊かな街づくりの思いからスタートした荻窪音楽祭。その舞台に3年ぶり、南相馬市立原町一中吹奏楽部の生徒さんがやってきます。東日本大震災は、今の中学生にとって記憶ではなく記録でしかありません。だからこそ、共に同じステージで演奏することは大きな意味を持ちます。去年はオンライン参加でした。この荻窪音楽祭のために、指揮者福田洋介さんが作曲した「響きの街へ」を杉並と南相馬の子どもたちが、今回初めて一緒に演奏します。夢が叶うようで今から私自身とても楽しみです。

南相馬市立原町一中出身 音大生

杉並を拠点とする日本フィルは、2011年の東日本大震災直後から被災地に音楽を届ける活動を開始しました。今回のワークショップでクラリネットの指導をしている橋本さんはその時、南相馬市原町一中吹奏楽部で日本フィルの方と出会いました。そして、この繋がりから荻窪音楽祭「未来夢コンサート」での共演が実現し、さんは荻窪音楽祭に出演したひとりです。参加により自分の中学だけの世界から、多くの仲間がいることやプロの演奏家の凄さなど多くの経験をしました。その後、さんは高校で東京へ上京し音大付属校へ進学、昨年からは東京音大で学びながらクラリネットを教えてくださいました。今度は、さんが、ひとりひとりに寄り添いながら、杉並の中学生へエールを送っています。



吹奏楽部でトロンボーンを吹いていました



※10月10日付け福島民報紙面より 先月、南相馬市で演奏しました。原町一中HPより



第8回 荻窪音楽祭・みらい夢コンサート
11月6日(日)13:30~(会場13時)
杉並公会堂大ホール 入場無料
申込みは、荻窪音楽祭ウェブサイトからどうぞ



杉並・南相馬の中学生合同で
・「響きの街へ」
・「ビリーブ」を演奏します。